

リユートリン一に對して水二と云ふのが宜しい、第二回目から其分量は一平方ヤードについて一ガロンの十分の二乃至十分の三で割合は凡グリュートリン一に對して水三が宜しい。地下排水のため

に舗面全部に十吋の勾配をつけ、かくして造られたる面は正確でなくとも出來得るだけ平坦にし、重量五噸以上の汽轆^{スライムローラー}で固めることを要する、此勾配をつける爲めに生じたる残りの土及材料は取り除けて處分せんければならない、更に出來上りの五吋厚さの豫定にて堅い石炭殻を十分撒布して五噸以上の汽轆で固め、尙、其石炭では最初も固める間も充分濕つて居るやうにすることが必要である、固め方は一人で澤山かも知れん、それから、節にかけた石を敷いて仕上五吋以上の厚さになるや、尙も其上から重量五噸以上の汽轆で固め、(濕式)又、舗面に勾配をつくることを要する、以上の如く充分且適當に固められた舗面全部に對して、グリュートリンの半ガロンが一平方ヤードに吸収

せらるゝまでグリュートリンと水との混合物を撒布することを要す、其割合はグリュートリン一と水二とである。

摘 録

○フレーベル氏の九原

則を評す

(承前)

(高島平三郎氏述)

(六) 兒童ヲシテソノ發達ノ各段階ニ於ケル要
求ヲ満足セシムベシ

此の原則は何人も異論のあるべき筈はありません。併し今日に於てこそ教育者は之を見て當然の事と思ひませうが一世紀近くも前に此の事を標榜して起つたフレーベルは實に卓見の大教育家であります。體人の生涯は種々の特別の生活が重なり合つて出來て居るやうなものです。それですから第一期の生活にはその生活特別の要求があり目的

がある譯です。第二期の生活は固より第一期の生活を通過して來るのでありますからこの點から考へれば第一期の生活は第二期の準備であり基礎であつて獨立の價値が無いやうでありますが決してさうではありません。各時期は一面にそれ自身が目的であると共に他面に次の時期の準備となるのであります。それですから人の生涯は各時期々々の要求を圓滿に遂げてさへ往けば立派な生活か遂げられる譯です。生れたばかりの赤ん坊には之に相當する要求がありますから適當に之を満足させねばならず三つ四つの子供にも亦その時期に大切なるいろ／＼の活動要求がありますからそれを遂げさせてやらねばなりません。然るに幼な子に少年少女の時代に現はれるやうな事を強ひて望んだり又少年少女に青年の言ふ事や爲る事を求めたりするのは無理な注文であつて子供の爲めに誠に可愛想であります。

現代に於てはこの原理を否認するものは無い

でせうけれども親や先生が子供に就いての知識が足らぬ爲めに知らず識らずの間に之を背くやうなことを多く致して居ります。例へば幼な子に「大人しくせよ」といふのは一般の親の要求でありますがこれがそも／＼無理であります。幼な子はいくら教へても諭しても完全な幼な子となるのが理想であつてその時期に於ては決して大人となれるものではありません。ベスタロツチといふ教育家が「活動ハ兒童ノ天性ナリ」と申しましたやうに少しもちつとして居らずに何かいろ／＼と大人の所謂「イタヅラ」をするのが幼な子の生活であり要求であります。その「イタヅラ」をたゞの徒事とせずして子供の現在の生活の爲めにも將來の爲めにも役に立つやうに指導してやるのが教育であります。兒童心理の上から申しますれば子供の心には感覺の階級に屬する時代と觀念の階級に屬する時代と又思想の階級に屬する時代とがあります。幼稚園以下の年齢の子供は大體上すべての心

が感覺の階級に屬して居ますからこの頃の子供には例へ物事を見聞せしめてもすつかりその物を覺えしめる必要もなく又出來も致しまん。又學齡時代即ち小學校に參る頃の子供の心は觀念の階級に屬して居るのであります故前の時とは違つて外物を成るべく精密に觀察させて十分に心に取り入れさせるやうにせねばなりません。健全な發達を遂げつゝある子供ならば自然にこの頃になれば求智心が盛んになつていろ／＼の外物に興味を持つやうになつて參ります。この頃の子供にいろ／＼と複雑なる理窟を教へたり抽象した概念に屬することを話したりしても大した效はありません。又之と共に幼稚園の時のやうにただ／＼感覺に觸れさせたのみでは満足いたしません。必ずそれ相當の要求を調査して満足を與へてやるやうにせねばなりません。青年期即ち中學校高等女學校などの二三年級から上になりますればもう小學校の時のやうに一つ／＼の物事を觀察せしめてその精確な

觀念を得しめたからとてそれで満足するものではありません。必ず是等觀念の中に包まれて居るいろ／＼の關係を明らめ物事の原因結果をただし理由を釋ね組織系統を要求するやうになります。かやうに單に智力の發達する上から見ても大體上三段の時期がありますからその各時期に従つてそれ相當の要求に又相當の満足を與へてやるやうにせねばなりません。

(七) 常ニ和合ト愛情トヲ以テ規則トスベシ。

この原則も亦子供を取扱ふ上に極めて適切なものであります。凡そ子供を取り扱ふものは自分が子供になつてよく子供と一致和合せねばなりません。先生や親が自分は親である自分は先生であるというて全く子供の理解なく大人の心と態度とを以て子供に臨みましたならば如何に良好な教へも決して良好な結果を得ることは出來ません。佛教の言葉に一如と申すことがありますがこれが實に修養上頗る大切なことであります。すべての仕事

をするものがその取り扱ふものと一つになるとい

ふことは何事に取つても大事でありますが取り分け子供を取り扱ふものが子供と一つになるといふことは必ずなくてはならぬことです。現にスタンレ

ーホール總長も「自然と一つになることは子供の光榮であつて子供と一つになることは先生の光榮である」Oneness with nature is the glory of the

childhood, oneness with the childhood is the glory of the teacher. G.S. Hall というて居られます。

私はこれは實に教育者に取つて極めて大切な格言であると思ひます、子供が人爲で害されずにのびなくと大自然の導くがままに活動し生長し先生が又この子供の心と一つ心を以て子供を導くといふことは何といふ莊嚴の事でせう。私はフレーベルの貴い生涯が全くこの語の如く子供と一如であつたことを考へて同先生に無限の敬意を表するものです。日本に限りませんが現代の教育の缺點はこの大切なる感情を捨てて置いて無暗にいろ／＼の

理窟を以て子供を教育せんとするのに存すると思ひます。先生が學問を研究し子供を研究し教へる事柄の智識と共に教へられる子供の智識を得又教へるの智識を得る事も必要でありますが、これと共に先生が子供と一致和合して一つになる情熱がなくては迎ても眞の教育は出来ません。

禪の公案の中に自分の悟つた處を言ふすべも知らぬ赤ん坊に傳へるといふのがありますがそれなどは實に面白いとでその解答は全く教育の眞髓を得て居ります。即ち自分が全く子供と一如して子供が喜び遊び又は安心して睡るやうに抱きかかへ守りしてやる事です。これが實に教育の生命です。ただ年齢の進むと共にその一如の内容がいろ／＼と變化するばかりです。嬰兒幼兒の頃は「ネンネコ」でもよいでせうが少年少女の後半から青年處女期にかけては理解してやるといふことが一如する最大要件となるのであります。

愛情も歸する所は理解にあるのです。印度のタ

ゴールは「愛トハ全キ理解の別名ナリ」というて

居りますが實に卓見であると思ひます。父母や教育者が子供を愛するのは盲目的本能ではなりません。必ず合理的のものであつて愛情の後景には理智が伴うて居らねばなりません。それには子供をよく理解し各時期に於ける正當なる要求を知了して之を満足せしめてやらねばなりません。之が眞の愛情であります。凡そ如何なる教育も愛情が中心とならぬ教育は形式です皮相です。生命の無いものであります。愛情こそ教育と生徒との間に在つて教育といふ神聖なる事業に生命あらしめるものであります。私は此點に於てもフレーベルの敬虔なる信仰の生涯に於て全心を傾けて子供を愛した事に滿腔の敬意を表します。私は世の父母や教育者が眞の愛即ち理智を後景としたる熱烈なる愛情を以て子供に臨むに至らんとを切望致します。

(八) 人ハッソノ兒童ノ爲メニ生存セザル可ラズ。兒童以外ニハ人ノ生存ラシテ價値アラシムル

モノ一モナシ。

人が子供の爲めに生きて居るといふことは「べき」であると共に「ある」です。その意味は吾々人類が子供を有する以上はその子供の爲めに盡さねばならぬのは道徳の上からいうて當然の事でありませんが假令道徳の考ない者でも自然と子供の爲めに生きて居るやうになつて居るのです。即ち必然に人は子供の爲めに生きて居るのです。

人の生活が本能に導かれて居るのは今更いふまでもないことではありますが、その本能の中でも自護の本能というて自己の個體を護ることを主とする榮養防禦の本能があります。是等の本能があるから吾々は食物を取る事に就いていろ／＼の働をなし又敵を防ぐ爲めに或は攻撃したり或は逃げ隠れたりするのです。併し吾々人類はただ是等の本能を満足せしめて完全に生きて居るばかりではありません。更に生殖本能といふ強い働が起つて参りまして、男女兩性の間の愛情を導きます。その

結果は何であるかといふとつまり子供が生まれるといふことです。愛情の伴ふ種々の感情的葛藤は何れも皆この結果に導く手段に外ならぬのです。

若し人生からかういふ現象を取り去つたら宗教も藝術も道徳も殆んどその立場を失ふでせう。實に吾々人類の活動の大部分は此の如くにして直接間接に子供の爲めに費されて居るのです。

全體生殖といふことはその親の身體に取つては随分危険なことです、植物や下等動物の間には生殖を終ると同時に死滅するものさへあります。すべての生物界の現象を通観しますると生物は皆その子孫を繼續する爲めに生存して居るのであるといふことが認められます。それゆゑ子孫繁殖の目的を遂げた生物はもうこの世に用がないから死滅するのです。生物の壽命に大體の定まりがあるのもつまり子孫擁護の目的を全うする爲めに出來て居るやうです。随つて生物の階級が下等であつて子供が生まれると直ぐに獨立し得るやうなものは

比較的に壽命が短いのです。吾々人類は生物の中で比較的に最も長い兒童期を有して居るのです。

即ち文明國に於ては子供が生まれてから少くも二十年乃至二十五年位までは親が保護してやらねばなりません。随つて一般の壽命も短くてはこの目的を遂げることが出來ませぬ故百歳乃至百二十五歳までも生活し得るやうになつて居るのであります。

併し親があまり長く生きて居ると子孫の進化發展の妨げとなりますからその定命以内には大抵死滅するのです。若し同一の人がいつまでも同じ境遇に在つて同じ生活を續けて居ますとこの世の中は永久に進歩することは無いでせう。それゆゑどんな人でも一定の時が來れば死滅して子孫が後を繼ぎ更に新しい境遇に新しい方法で順應して行くのです。そこで色々と變つた事が出來、その間には失敗することもありませうが、又從來と變つて大に進歩することもこれより出て來るのです。さ

うして見ますればフレーベルの第八原則たる「人ハツノ兒童ノ爲メニ生存セザル可ラズ」といふことはつまり必然の事を當然の事に持ち來つて一層深く一般の人々に此事を感ぜしめるやうにしたものというてよいでせう。通俗の意味からいうても親は大抵子供よりも早く死ぬもので親が生前にして置いた事は皆子供に影響するものです。いくら多くの金銭を積んでも死後まで持つて往くことは出來ません。残らず直接の吾が子かさらずば他の子孫の用に供するのです。いやでも應でも人は子供のため生存することとなる譯です。どうせ子供の爲めに生まるほどなら子供を十分立派な者に育ててあつばれ自分以上の人物とし自分の成し遂げ得なかつた事を子供に成さしめるやうに努めたきことでありませう。

又「兒童以外ニハ人ノ生存ヲシテ價值アラシムルモノ一モナシ」というたのはあまり言ひ過ぎて居るやうですがこれ又人生の根柢に就いていうた

ら眞實この通りでありませう。人には種々の欲望がありますからその欲望が満足せられた時にはこの世の中を價值あるやうに思ひ、若し之が満足せられぬ時は價值なくつまらぬやうに考へ、その甚しきに至ると厭世して自殺するものさへあります、併し人の欲望の根柢を釋ねますとつまり自護と生殖との本能に歸しその二つの本能の中でも自護は生殖の爲の基礎となつて居てその眞の目的は生殖にある事が分ります。それゆゑフレーベルの此の主張も必ずしも言ひ過ぎではありません。少くとも人の生存をして意義あらしめる者は子供です。意義はやがて價值であります。

(九) 兒童ノ最大要求ハ健康ト戶外生活(自然及土地ニ親ムタメニ)トノ二ナリ。

これは極めて平凡のことのやうであります、實は最も必要の事であります。第一の原則に於て述べましたやうに兒童は人類種族の發達史を反覆するものでありまして幼少の頃は未開人が始終戸

外に出て自然に親しんで居りました頃の状態をくりかへすのであります故子供は天性として成るべく青天白日の下に置いてやる必要があります。

幼稚園などでは殊更室内の課業を少くして庭園森林海岸野原など危険でなくして自然物に親しみ得る場所に多く置いてやるやうにせねばなりません。毎日の課業も室内よりは運動場や庭園で多く過ぎさせるやうにすべきであります。殊に大都會の子供は各自の家に庭園を有する者は少く始終汚れた空気を呼吸して居るのであります故せめて幼稚園や小學校では晴れやかな運動場に於て十分に運動の出来るやうにしてやりたいものです。幼児の戶外生活を要求する天性に背いて室内に入れるのは學校教育上止むを得ぬことであります。それにしてもよく注意して次第に教室内の生活に慣れるやうにしてやらねばなりません。子供は幼稚園や學校に入りたてには健康を害することの多いものです。これは全く子供の從來の自然にして

自由なる生活と異つて一定の室に多人數一所に居り窮屈な生活をする爲めでありませう。要するに子供の幼い頃殊に幼稚園時代には努めて自然及び土地に親しませてやるやうにせねばなりません。

全體幼稚園の保育はその文字の示すやうに身體の養護を第一にすべきであります。固よりいつの時代の教育でも身體に注意せねばならぬのはいふまでもない事でありますが、幼稚園に於ては特に健康に意を用ひねばなりません。この頃の子供は自由自在に開豁なる野原や海岸を駆けめぐり新鮮なる大氣の中で適當な日光に照らされ大人に比較して二倍も三倍も食物を取るやうでなければならぬのです。これが實にこの頃の子供の要求です。然るに狭い室に多くの子供を入れて自由に運動も許さず悪い空気をさんく吸はせてこの中で何か教へやうとするやうな幼稚園はそれこそ人の子を賊ふものです。殊に幼稚園に來る頃の子供は最も流行性傳染病性の病氣に感染し易い時であります

から一層注意して成るべく是等の危険を防ぐやうにせねばなりません。醫家の中にはこの頃の子供が病氣に感染し易いといふことを理由として子供を幼稚園に入れるのに反対する人がある程です。それですから幼稚園の事業に従事して居る人は吳も氣を付けてかういふ危害を防ぐやうに努めねばなりません。

以上で大體の批評を終りましたが是等の原則はいづれも今日に於ても保育上並びに教育上の眞理

として受容することが出來ます。假令フレーベルの方法が神祕的形而上學的立脚地から出て今日の心理學生理學及び教育學の進歩と伴はぬにしましてもその原理原則は依然として生命を有して居ります。今日以後の學者並びに實際家はよろしくフレーベルの如き人類の恩人の立てた貴ぶべき原則を時代々々に應じて適當に應用して往きその効果の大に擧がるやうに努むる責任があると思ひます。

(兒童研究第十九卷第三、四號より)

保 育 入 門 (十三)

倉 橋 惣 三

九、幼稚園教育の方法

第三、其の手段 (つらき)

五、實物教育

世に實物ほど貴重なる教育手段はない。實物はそれ自身としての目的なり意味なりを有するものであつて、必ずしも始めから特に教育の手段とし